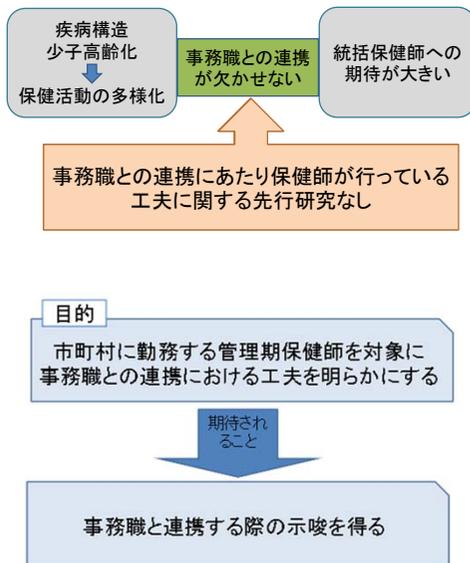


# 保健事業展開における保健師と事務職の連携の工夫

## —管理期市町村保健師へのインタビューから—

齊藤 愛, 滝本裕理香 旭川医科大学医学部看護学科

### 緒言



### 方法

- 研究対象**・市町村に勤務する事務職との連携について経験豊富な係長職以上の管理期保健師2名
- 調査方法**・半構面面接法による質的記述的研究とした。  
2017年8~9月、保健センター内の個室を借用し、学生2名が保健師1名に対し60分程度のインタビューを行った。内容は対象者の承諾を得て録音した。
- 調査内容**1. 対象者の属性: 年齢、性別、保健師経験年数、現在の職位、所属市町村の人口  
2. インタビュー内容  
① 事務職と連携してよかったこと  
② 事務職との連携で大変だったこと・その場面  
③ 事務職との連携で心がけていることや工夫  
④ その他事務職との連携で感じていること
- 分析方法**・録音データから逐語録を作成し、事務職との連携の工夫に関する内容を抽出しコード化  
・コードを意味内容により類似分類しサブカテゴリーを作成し、さらに抽象度を上げたカテゴリーを作成
- 倫理的配慮**・旭川医科大学倫理委員会の承認を得た(承認番号17025)  
・対象者に、研究目的と方法、研究参加の自由意志、同意撤回も可能であること、不参加や同意撤回による不利益はないこと、匿名性の確保、研究終了後のデータ破棄等を文書と口頭で説明し、同意書に署名を得た

### 結果と考察

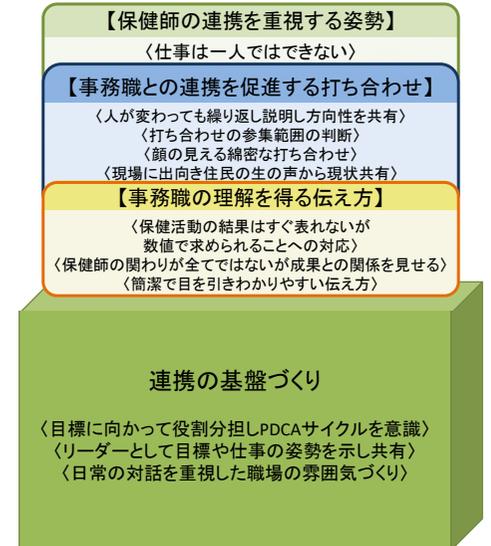
**対象** 市町村に勤務する50歳代女性2名  
保健師経験年数は平均29.0年(課長1名、係長1名)  
所属市町村の人口は1万人未満1名、3万人未満1名

表1. 保健師と事務職の連携における課題と工夫

カテゴリ(5)	サブカテゴリ(24)
事務職との連携における難しさ	事務職の熱意や考え方・得意な部分の個人差 事務職の職位によって対応が異なる 事務職の上司に保健師の仕事の理解を得る 事務職の異動で説明を一からやり直す 事務作業の増加で保健指導の時間が削られる
互いの役割を活かした連携	住民目線の貴重な意見をもらい一緒に考える 保健師だけでは稼働がとれない部分を連携 事務職との連携による抜け目のない支援 切り札となる法的根拠を示し担当で動いてもらう 事務職が得意とする仕事を理解 連携の体験からその大切さをつかむ
事務職との連携を促進する打ち合わせ	人が変わっても繰り返し説明し方向性を共有 打ち合わせの参集範囲の判断 顔の見える綿密な打ち合わせ スケジュール管理を行い見通しを伝える 現場に向き住民の生の声から現状共有
事務職の理解を得る伝え方	保健活動の結果はすぐ表れないが数値で求められることへの対応 保健師の関わりが全てではないが成果との関係を見せる 簡潔で引き引きわかりやすい伝え方
保健師の連携を重視する姿勢	組織を越えて事務職と連携するスタンス 仕事は一人ではできない 目標に向かい役割分担しPDCAサイクルを意識 リーダーとして目標や仕事の姿勢を示し共有 日常の対話を重視した職場の雰囲気づくり

以下、カテゴリを【】、サブカテゴリを〈〉で示す。

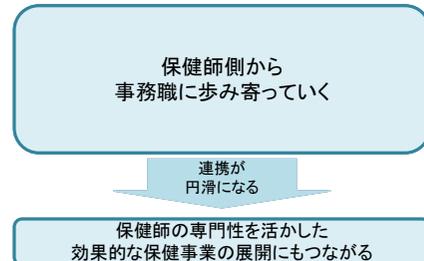
### 保健師と事務職の連携の工夫とあり方



事務職との連携の工夫を明らかにしたことで、連携により保健事業を効果的かつ効率的に行うことができる可能性も示された



### 事務職との連携の課題と難しさ



### 【互いの役割を活かした連携】

- 〈住民目線の貴重な意見をもらい一緒に考える〉  
〈保健師だけでは稼働がとれない部分を連携〉  
〈事務職との連携による抜け目のない支援〉  
〈事務職が得意とする仕事を理解〉  
〈連携の体験からその大切さをつかむ〉

体験を通して学びながら  
連携の技術をつかみ、  
体制整備につなげていくことの重要性

### 結論

- 1)事務職の熱意や考え方・得意な部分の個人差など連携における難しさはあるが、保健師は連携を重視する姿勢を持ち、連携の体制づくりを行っていた。
- 2)事務職との連携の工夫として、理解を得るためのわかりやすい伝え方、連携を促進する打ち合わせを綿密に行っていた。
- 3)事務職と保健師の互いの役割を活かした連携を図ることで保健事業の効果的かつ効率的な展開につながる可能性が示唆された。